

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2017/04/06 ~ 2017/05/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587042101	科目番号 / Subject code	05870421
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13731_005		
授業科目名 / Subject	核兵器廃絶へのアプローチ (核兵器廃絶と教育) / Nuclear Weapons Abolition and Education		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	全 炳徳 / Jun Byungdug, 高瀬 毅 / Tuyoshi Takase, 桐谷 多恵子 / Taeko Kiriya, 山口 剛史 / Takeshi Yamaguti, 広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	全 炳徳 / Jun Byungdug		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	全 炳徳 / Jun Byungdug, 高瀬 毅 / Tuyoshi Takase, 桐谷 多恵子 / Taeko Kiriya, 山口 剛史 / Takeshi Yamaguti		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟12 / RoomA-12		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化、教育、経済、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	bdjun_nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部本館、309号室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2324		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月10:30-14:20		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器廃絶および被ばく体験等の歴史的事実の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について「平和教育の観点」から考える。		
授業到達目標/Goal	歴史的な負の遺産をどう教育していくのかについて考察し、長崎、広島、沖縄を題材として取り上げ、それぞれの専門家からの情報を元に、地域的な特色を含む教材のあり方について考える。学んだ内容に基づいて受講生自らが平和教育の教材を作る。教材は専門からの情報に加えて、現地調査やディスカッション等を経て、小中学生向けの平和教育教材として作り上げる。作成した教材は模擬授業で披露し、希望者を中心に、学校現場にて実践を行う。		
授業方法 (学習指導法) /Method	長崎、広島、沖縄についての負の遺産やこの分野の専門家による地域的特性などを講義 (座学とディスカッション)。更には、これらについての自らの発想による事実確認、現地調査などをグループ活動として行う。これを受けて、受講生たち自らが作成した平和教育のための授業教材を開発し、実践する場を提供する。		
授業内容/Class outline/Con	1回目 オリエンテーションと本授業の概要 2回目 核兵器廃絶を復興史の観点から見つめる (桐谷) 3回目 核兵器廃絶をマスコミの観点から見つめる (高瀬) 4回目 核兵器廃絶を平和教育の観点から見つめる (山口) 5回目 復興史, マスコミ, 平和教育の観点を整理・発表 6回目 平和教育の教材開発 (グループ活動、現地調査など) 7回目 模擬授業 (グループ活動による教材の発表)		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	講義の前に参照文献等を提示し、授業中は討論の材料とする。毎回、レポートを義務付けることで事後学習に当たるとともに、事後学習のチェック体制 (発表・議論) を整う。		
キーワード/Key word	核兵器廃絶、平和教育、「被爆地ナガサキ」		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	講義時に提示予定		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	本講義は 1. 毎回レポートの評価点 2. 教材開発と発表の内容評価点 3. 模擬授業の評価点 4. 最終レポートの評価点 を合計して評価する。		
受講要件 (履修条件) /Requirements	平和に関連した教育の興味・関心のある学生 初等・中等教育に関心のある学生		
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	学校教育に興味のある人が望ましい。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		

第1回	オリエンテーション：全
第2回	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、講義）：桐谷、全
第3回	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、討論会）：桐谷、全
第4回	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、講義）：高瀬、全
第5回	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、討論会）：高瀬、全
第6回	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、講義）：山口、全
第7回	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、討論会）：山口、全
第8回	核兵器廃絶と教育（今までの講義を振り返り）：全
第9回	核兵器廃絶についての教材開発：全 （グループ活動）
第10回	核兵器廃絶についての模擬授業：全
第11回	平和教育についての教材開発：全 （グループ活動）
第12回	平和教育についての模擬授業：全
第13回	平和教育教材開発1（グループ活動）：全
第14回	平和教育教材開発2（グループ活動）：全
第15回	最終模擬授業：全
第16回	最終レポート提出

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 4クオ ーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2017/11/28 ~ 2018/02/01		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587042901	科目番号 / Subject code	05870429
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13761_005		
授業科目名 / Subject	核兵器廃絶へのアプローチ (核軍縮の法と政治) / Law and Politics of Nuclear Disarmament		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 石司 真由美 / Mayumi Ishizuka, 鈴木 達治郎 / Suzuki Tatsujiro		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 新井 勉 / Arai Tsutomu, 鈴木 達治郎 / Suzuki Tatsujiro		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟44 / RoomB-44		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年次生、多教経薬水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	shirose nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	核兵器廃絶研究センター 2階		
担当教員TEL/Tel	内線 2204		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜4限もしくはアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	モジュール?で学んだ基礎的な科学技術の発展と社会的な影響およびその管理に関する知識と理解の上、核兵器をめぐる国際政治と国際法の、より具体的なトピックを検討することで、核兵器と平和の問題を深く掘り下げて考察することを目的とします。そして、受講する学生一人一人が、現在の国際社会に生きる一人の人間として、「核」という人類の抱える最大の問題の一つと向き合う姿勢を養うことができればよいと考えています。		
授業到達目標/Goal	具体的な到達目標としては、?核軍縮をめぐる国際政治、国際法に関する基礎的な事実や概念を正確に理解する、?核兵器をめぐる現実を理解することにより、核兵器と国際社会の持つ特徴を把握する、?核兵器を廃絶するために適切と思われる手段を自分なりに構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。		
授業方法 (学習指導法) /Method	担当教員による講義と、学生からの意見の発表およびグループディスカッションを組み合わせでの授業にする予定です。できるだけ毎回アクションペーパー等を通して、受講する学生が自分の意見を組み立て、表現する機会を増やしたいと思います。また、実際に外務省で軍縮交渉を担当している方を客員として招聘し、交渉の現実について、生の声を聴くことも予定しています。		

<p>授業内容/Class outline/Con</p>	<p>講義のアウトライン 第1回 はじめに：授業の進め方（広瀬） ? 「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・ パワーバランスとは何か ・ 「抑止」とは何か ・ 「核兵器」と「安全保障」 第2回 ? 「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」（広瀬） ・ 「軍縮」とは何か ・ 「軍備管理」とは何か ・ 「不拡散」とは何か 第3回 ? 核兵器の削減（広瀬） ・ 国際社会の取組 ・ 二国間の取組 ・ 地域的取組 第4回 ? 核不拡散条約（NPT）：その1（広瀬） ・ 成立の背景と経過 ・ 内容と特徴 第5回 ? 核不拡散条約（NPT）：その2（広瀬） ・ 1995延長会議 ・ 再検討プロセス ・ 現状と問題点 第6回 ? 核軍縮交渉の現状と問題点（予定） ・ 西田充客員準教授 第7回 ? 核実験の禁止（石司） ・ 部分的核実験禁止条約（PTBT） ・ 包括的核実験禁止条約（CTBT） 第8回 ? 非核兵器地帯（石司） ・ 非核兵器地帯とは何か ・ 世界の非核兵器地帯 ・ 北東アジア非核兵器地帯提案 第9回 ? 核不拡散と原子力の平和利用（鈴木） ・ 科学者の社会的責任 第10回 ? 新しい核軍縮の試み ・ 兵器用核分裂性物質生産禁止条約（カットオフ） ・ 核兵器不使用条約 ・ 核兵器禁止条約 第11回 ? 核軍縮と国際人道法 ・ 国際人道法とは何か ・ 核兵器は国際法違反か 第12回 ? 核軍縮交渉の現状と問題点（予定） ・ 西田充客員準教授 第13回 ? 核軍縮交渉の舞台 ・ ジュネーブ軍縮会議（CD） ・ 国連総会および第一委員会 ・ 国連軍縮特別総会（SSOD） 第14回 ? 核軍縮交渉と世論 ・ 核軍縮交渉と市民 ・ 私たちにできること 第15回 ? まとめ 第16回 期末レポート提出</p>
<p>事前、事後学習の内容/Preparation & Review</p>	<p>授業に関する資料、条約、宣言等を指定しますので、それらをLACS上もしくはRECNAのデータベース等から取得し、予め目を通しておくことが前提となります。また、授業後には、それぞれの問題について、「自分が交渉担当者ならどう考えるか」という視点から復讐することを期待します。そのまとめが期末レポートになります。</p>
<p>キーワード/Key word</p>	<p>軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法、被爆地ナガサキ</p>
<p>教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book</p>	<p>テキスト： 特に指定しません。 参考書： 黒澤 満編著 『軍縮問題入門 第4版』 東信堂 黒澤 満 『核軍縮入門』 信山社 黒澤 満 『核軍縮と世界平和』 信山社 藤田久一 『核に立ち向かう国際法』 法律文化社 上記以外に、RECNAのホームページ、特に「市民データベース」には核軍縮に関する主要な情報がまとめられているので、適宜参照してください。</p>
<p>成績評価の方法・基準等/Evaluation</p>	<p>出席および講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の40%、期末のレポートが60%になります。</p>
<p>受講要件（履修条件）/Requirements</p>	<p></p>
<p>アクセシビリティ/Accessibility</p>	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
<p>備考（URL）/Remarks(URL)</p>	<p>http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ/Message for students</p>	<p>講義の進度、講師のスケジュール等により、多少予定が変更になる場合があります。授業の中だけでなく、教室の外でも核軍縮に関する情報やニュースの収集のような予習を各自が進めることを期待しています。積極的に問題意識を持って授業に臨むことを期待しています。</p>

授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめてに：授業の進め方（広瀬） ? 「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・ パワーバランスとは何か ・ 「抑止」とは何か ・ 核兵器と安全保障
第2回	? 「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」（広瀬） ・ 「軍縮」とは何か ・ 「軍備管理」とは何か ・ 「不拡散」とは何か
第3回	?核兵器の削減（広瀬） ・ 国際社会の取組 ・ 二国間の取組 ・ 地域的取組
第4回	?核不拡散条約（NPT）：その1（広瀬） ・ 成立の背景と経過 ・ 内容と特徴
第5回	?核不拡散条約（NPT）：その2（広瀬） ・ 1995延長会議 ・ 再検討プロセス ・ 現状と問題点
第6回	?原子力の平和利用と不拡散（広瀬 / 鈴木達治郎） ・ 科学者の社会的責任
第7回	?核実験の禁止（広瀬） ・ 部分的核実験禁止条約（PTBT） ・ 包括的核実験禁止条約（CTBT）
第8回	?非核兵器地帯（広瀬） ・ 非核兵器地帯とは何か ・ 世界の非核兵器地帯 ・ 北東アジア非核兵器地帯提案
第9回	?新しい核軍縮の試み（広瀬） ・ 兵器用核分裂性物質生産禁止条約（カットオフ） ・ 核兵器不使用条約 ・ 核兵器禁止条約
第10回	?核軍縮と国際人道法（広瀬） ・ 国際人道法とは何か ・ 核兵器は国際法違反か
第11回	?核軍縮交渉の舞台（広瀬） ・ ジュネーブ軍縮会議（CD） ・ 国連総会および第一委員会 ・ 国連軍縮特別総会（SSOD）
第12回	?核軍縮交渉の現状と問題点（予定） ・ 新井勉大使
第13回	?核軍縮交渉の現状と問題点（予定） ・ 新井勉大使
第14回	?核軍縮交渉と世論（広瀬） ・ 核軍縮交渉と市民 ・ 私たちにできること
第15回	?まとめ（広瀬）
第16回	期末レポート提出

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3ク ォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/24		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587045101	科目番号 / Subject code	05870451
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13751_005		
授業科目名 / Subject	核兵器廃絶へのアプローチ (メディアと平和) / Journalism and the Path to Peace		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	森川 裕二 / Morikawa Yuji, 普久原 均 / Fukuhara Hitoshi, 山口 響 / Yamaguchi Hibiki, 広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	森川 裕二 / Morikawa Yuji		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	森川 裕二 / Morikawa Yuji, 普久原 均 / Fukuhara Hitoshi, 山口 響 / Yamaguchi Hibiki		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟G3A / RoomG-3A		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化、教育、経済、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	morikay@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	多文化社会学部総研棟11F		
担当教員TEL / Tel	095-819-2904		
担当教員オフィスアワー / Office hours	金曜日 9:00 ~ 12:00		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	ジャーナリズムは、第二次大戦後の「世界の平和」についてどのような視点から報道してきたのか。国際政治の中での日本の立ち位置をジャーナリズムを通じて学びます。とくに冷戦後の世界と、3.11後に政治・経済各面の矛盾を浮き彫りにしたメディアの対応を批判的に議論し、「核なき世界」と平和実現の課題について考える。		
授業到達目標 / Goal	平和な世界を実現するために、ジャーナリズムに何を期待すべきか。戦争と平和そして核についての報道を批判的に論じるための視点を身に着ける。		
授業方法 (学習指導法) / Method	講義と討論。講義は国際秩序と平和についての歴史的な流れを主要メディア報道に関連づけて理解するための総論のほか、各論では講義陣に「オルタナティブなメディア」(主要メディアとは異なるメディア:小倉利丸、山口響)、「ローカルメディア」(地方紙:普久原均・琉球新報社論説委員)の現役ジャーナリスト3人が参加し、生きた「平和ジャーナリズム」論について学ぶ。講義をもとにグループ討論の時間を2回用意する。		
授業内容 / Class outline / Con	講義形式とグループワーク(グループディスカッション、シミュレーションなど)で構成する。グループワークはただ参加するだけでなく、教員の指示にしたがって事前の準備をして臨むこと。		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review			
キーワード / Key word	冷戦後の世界、国際秩序、核政治、ジャーナリズム		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	参考図書:『日米核同盟』太田昌克(岩波書店)。藤原帰一『平和のリアリズム』岩波書店。『普 天間移設 日米の深層』琉球新報「日米廻り舞台」取材班(青灯社)、『琉球新報が伝える 沖縄の 「論理」と「肝心」』琉球新報社論説委員会(高文研)。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	最終レポート40% 中間レポート40% 授業・討論の取組み姿勢20%		
受講要件 (履修条件) / Requirements	週平均2時間、授業外学習(関連図書・資料のチェックなど)にあてること。日々の新聞・TVの国際関係記事をチェックする習慣をつけること		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	事実関係の細部を把握すること以上に、事実関係の背後にある構造と考え方を探求することが大事です。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	メディアは平和をつくれるか(総論、森川)		
第2回	権力とメディア(小倉)		
第3回	戦後国際秩序と日米同盟(森川)		
第4回	冷戦と平和(森川)		
第5回	新しい戦争とメディア(9.11後のジャーナリズム、森川)		

第6回	原子力平和利用と日本の核政治（森川）
第7回	長崎のメディアは原子力「平和」利用をどう報じたか（山口）
第8回	3・11後のオルタナティブ・メディア——原発政治をめぐる（山口）
第9回	反核・反戦運動の中のメディア（山口）
第10回	反核・反戦運動の中のメディア（グループ討論、山口）
第11回	沖縄基地問題と日米同盟（琉球新報社記者・普久原）
第12回	地方メディアと平和報道（長崎新聞社記者・蓑川）
第13回	地方メディアと平和報道（長崎新聞社記者・蓑川）
第14回	核政治と国際報道（森川）
第15回	核政治と国際報道（グループ討論、まとめ、森川）
第16回	定期試験

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/24		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587045101	科目番号 / Subject code	05870451
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13751_005		
授業科目名 / Subject	核兵器廃絶へのアプローチ (メディアと平和) / Journalism and the Path to Peace		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	森川 裕二 / Morikawa Yuji, 普久原 均 / Fukuhara Hitoshi, 山口 響 / Yamaguchi Hibiki, 広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	森川 裕二 / Morikawa Yuji		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	森川 裕二 / Morikawa Yuji, 普久原 均 / Fukuhara Hitoshi, 山口 響 / Yamaguchi Hibiki		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟G3A / RoomG-3A		
対象学生 (クラス等) / Object Student	1?4年		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	morikay nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	総合教育研究棟 1 1F 森川研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2904		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜日2限		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	ジャーナリズムは、第二次大戦後の「世界の平和」についてどのような視点から報道してきたのか。国際政治の中での日本の立ち位置を、長崎の視点とも関連づけてジャーナリズムを通じて学びます。とくに冷戦後の世界と、3.11後に政治・経済各面の矛盾を浮き彫りにした核開発と原子力平和利用を分離してきたメディアの対応を批判的に議論し、「核なき世界」と平和実現の課題について考える。		
授業到達目標/Goal	平和な世界を実現するために、ジャーナリズムに何を期待すべきか。戦争と平和そして核についての報道を批判的に論じるための視点を身に着ける。		
授業方法 (学習指導法) /Method	講義と討論。講義は映像・紙媒体(新聞)を活用し、冷戦後の紛争と平和について学ぶ。討論は主に長崎をテーマにした平和について議論する。		
授業内容/Class outline/Con	講義は国際秩序と平和についての歴史的な流れを主要メディア報道に関連づけて理解するための総論のほか、各論では講義陣に「オルタナティブなメディア」(主要メディアとは異なるメディア:小倉利丸・富山大学名誉教授、山口響・長崎在住)、「ローカルメディア」(地方紙:普久原均・琉球新報社論説委員)の現役ジャーナリスト3人が参加し、生きた「平和ジャーナリズム」論について学ぶ。講義をもとにグループ討論の時間を2回用意する。		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	各担当教員から事前に授業の参考資料をLACSを通じて配布し、授業内での議論の準備をして臨む。事後学習としては、授業内容の理解を促すために、各担当教員の授業ごとに論点ペーパー(講義の論点の要約と敷衍、自分の意見)を提出する。		
キーワード/Key word	冷戦後の世界、国際秩序、核政治、ジャーナリズム(主要メディアとオルタナティブなメディア)		
教科書・教材・参考書/Textbook,Teaching material,and Reference book	参考図書:藤原帰一『平和のリアリズム』岩波書店。『普天間移設 日米の深層』琉球新報「日米廻り舞台」取材班(青灯社)、『琉球新報が伝える 沖縄の「論理」と「肝心」』琉球新報社論説委員会(高文研)。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	論点ペーパー40%、最終レポート50%、授業への取り組み姿勢(討論の参加状況)		
受講要件(履修条件)/Requirements	週平均2時間、授業外学習(関連図書・資料のチェックなど)にあてること。日々の新聞・TVの国際関係記事をチェックする習慣をつけること		
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	事実関係の細部を把握すること以上に、事実関係の背後にある構造と考え方を探求することが大事です。そのためには歴史的な教訓を学ぶことは重要な方法です。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回/9月29日	メディアは平和をつくれるか(総論、森川)		
第2回/10月6日	権力とメディア(小倉)		
第3回/10月13日	日米同盟とメディア?(普久原)		
第4回/10月20日	日米同盟とメディア?(森川)		

第5回10月27日	原爆被災を記録・記憶すること（山口）
第6回11月10日	福島原発事故以後の政治とメディア（山口）
第7回11月17日	北東アジアと核政治（森川）
第8回11月24日	まとめ・討論